

確かな学力の定着・向上をめざして

～子どもたちが「分かった」「できた」と実感できる授業づくり～

I テーマ設定理由

子どもたちの思考力、判断力、表現力や学習意欲を高めるためには、日々の授業が大切であることは言うまでもない。学級の状況や児童の実態を把握し、どのような授業を仕組んでいくか考える中で、児童の側に立った授業づくりを意識していきたいものである。

具体的には、基礎・基本を重視し言語活動を手立てとした取組を行い、子どもたちが、「分かった」「できた」「楽しい」と思えるような授業を展開していくことである。特に、基礎的・基本的事項の確実な習得の上に、活用学習を実践していくことが大切である。こうした授業づくりが、子どもたちの学習意欲へもつながるはずである。また、実践後は授業の振り返りを行い、よりよい授業をめざして改善をしていくことが必要となる。

このような授業実践を積み重ねていくことによって、やがて子どもたちの学力や教師の指導力の高まりが図れると考え、このテーマを設定した。

II 研究の内容

1 活用学習

県学力向上パイロットスクール事業（H23～24年度）での研究の積み重ねとして、今年度も主に算数科を中心に研究を進めてきた。全体での授業研究会を2本（1年国語・4年算数）計画し、その他の学年は一人一実践として部会内の研究とした。

- 1年 国語 「じどう車くらべ」 ～じどう車ずかんを作ろう～
- 2年 算数 「たし算とひき算」 ～計算ピラミッドをかんせいさせよう～
- 3年 算数 「かけ算の筆算」 ～かけ算の解き方を説明しよう～
- 4年 算数 「わり算の筆算」 ～わり算の解き方を説明しよう～
- 5年 算数 「単位量あたりの大きさ」 ～安いのはどれ～
- 6年 算数 「比と比の値」 ～比を使って考えよう～
- 特別支援学級 算数 「およその面積」 ～およその面積を求めよう～

2 学級力向上プロジェクト

- (1) 5月に各学級で、「よい学級」というテーマで話し合い、ビッグカルタ（イメージマップ）を仕上げた。
- (2) 学級ごとに「学級力アンケート」を行い、その結果を「レーダーチャート」に表し、どの力を伸ばしていくかを話し合った後（スマイルタイム）、学級で工夫した活動（スマイルアクション）に取り組んだ。
- (3) ビッグカルタとレーダーチャートは、いつでも子どもたちが見られるように教室内に掲示した。

- (4) 8月, 10月, 2月に学級力ミーティング(教職員間の情報交換会)を開き, 各学級の取組状況を交流し合った。よい点を付箋に書いて発表した。

3 学習会

夏季休業中に, 特別支援教育に関わる学習会を行った。通常学級に在籍している支援が必要な児童への対応について教えていただいた。日常の実践にすぐに役立つ内容だった。

『通常学級で活用できる支援の方法について』

講師 山梨県総合教育センター研修主事 小林 勝先生

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- (1) 活用学習は3年間の積み重ねがあり, 前年の授業改善プランを基に新たな実践の積み上げをすることができた。また, 学習シートや掲示物が, さらによりよいものに改良された。
- (2) 子どもたちに, 「まず」「次に」「最後に」という三段階思考法を用いた説明の仕方が徐々に身についてきた。自分の考えを整理して, 分かりやすく書く力が伸びてきている。
- (3) 学級力レーダーチャートを分析し, 改善策を話し合い取組をしていくことによって, 自分たちの学級をよりよくしていこうとする意識が高まってきた。データの分析も的確にできるようになってきている。
- (4) 学級力ミーティングにより, 他の学級がどのような状況であるのか, どのような取組をしているのか知ることができた。

2 課題

- (1) 活用学習を行うには, その単元の習得が十分にできていないと難しいため, 基礎・基本の習得を徹底させる必要がある。
- (2) 本校の算数科の活用学習は, 単元を固定してあるので授業の流れはできている。今後, 他の単元や国語科での活用学習へ広げていきたい。
- (3) 三段階思考法の論述が身についてきてはいるが, 個人差がある。全く書けないという児童は少なくなったが, なかなか書き始められない児童への書き方の支援や工夫をさらに考えていく。
- (4) 県学力把握調査や全国学力学習状況調査で, 本校は無解答率が高いという結果が出たため, 各教科や道徳の時間などあらゆる機会を捉えて, 自分の考えを書くことに重点をおいた指導をしていく必要がある。
- (5) 家庭学習の取組を通して, 学習習慣の定着をさせることが確かな学力の定着・向上に確実につながると思われる。家庭と連携し, さらに家庭学習の継続を図っていきたい。

(研究主任 水上久美子)